

1

議席番号 5 番

大石 巖 議員

開始予定時間

3月14日 午前9時

【行政改革の取り組みについて】

社会経済情勢の高度化・多様化に対応する行財政運営が求められている。そのためには、効率的で質の高い行政の仕組みと環境が必要となる。

これまで「吉田町人口ビジョン」などを包含した第5次吉田町総合計画が平成28年度からスタートし、「吉田町行政改革大綱（第5次）」が平成30年度までの3年間において10の推進項目を掲げて取り組まれている。

以下の項目について質問する。

- 1 「推進項目1 事務事業の合理化」のうち「(2) 吉田町まちづくりステップアップ行政評価システムの活用」の取り組みと評価は。
- 2 「推進項目3 町民参加型のまちづくり」のうち「(2) 町民の声の反映」の取り組みと評価は。
- 3 「推進項目5 定員管理の適正化・給与の適正化」のうち「(1) 定員管理の適正化」の取り組みと評価は。
- 4 「推進項目6 人材育成基本方針の推進」のうち「(1) 人を育てる職場環境の形成」の取り組みと評価は。

【個人情報保護について】

個人情報保護に関しては、地方公共団体の責務が法律によって明文化されており、憲法第11条の基本的人権の擁護・尊重の観点からも慎重な取り扱いが求められる。

以下の点について質問する。

- 1 自衛隊員の募集について、町は防衛省からの要請に応じて個人情報を提供しているか。又、どのような協力をしているか。
- 2 町民の葬儀・告別式が執り行われた際、国会議員や県議会議員から弔電が披露されることが見受けられるが、町からの情報提供はあるのか。
- 3 災害時において、高齢者や障害者など自ら避難することが困難な人を支援する「吉田町要配慮者避難計画」を策定しているが、要配慮者名簿があっても個人情報保護の観点から支援者の確保など、有効な活用が難しいとの声がある。地域で見守り、助け合う体制をどう推進するのか。

2

議席番号 3 番

遠藤 孝子 議員

開始予定時間

3月14日 午前10時

【平成31年度「躍進」の事業展開について】

第5次吉田町総合計画・前期基本計画の最終年度となり、その成果を着実に生かし後期基本計画に着手する時がきました。町民の安全対策として最重要である津波防災まちづくりにおける津波避難タワーの設置、防潮堤の嵩上げ等が進んでおります。また、将来の吉田町を担う子ども達の教育環境においては確かな実践が展開されています。

町では平成31年度は「豊かで勢いがあり、心を魅了するまち」にするため、その1「教育環境の充実」、その2「新たな安全と賑わいの創出」、その3「子育て支援の充実」、その4「健康づくりの推進」の4つの「躍進」事業が展開されることになっています。

これらの事業を具体的に展開するために以下の点についてお伺いします。

1 「新たな安全と賑わいの創出」について2点お伺いします。

- (1) 吉田町シーガーデンシティ構想推進委員会や吉田漁港多目的広場利活用検討委員会の具体的な内容と進捗は。
- (2) 北オアシスパークを中心とした東名吉田インターチェンジ、企業活動維持支援事業区域、多目的広場と吉田漁港や県営吉田公園等を結んで具体的に人の流れをどのようにするのか。

2 「教育環境の充実」についてお伺いします。

- (1) 幼児カリキュラムの実践やスタートカリキュラムの取り組みは。
- (2) 授業日数の平準化について31年度の実践に向けての取り組みは。
- (3) 中一ギャップを克服する「小中のつながりのある教育検討委員会」の具体的な進め方は。
- (4) 住吉小学校の「未来の学校『夢』プロジェクト」の成果と町内学校への波及は。

3

議席番号 6 番

山内 均 議員

開始予定時間

3月14日 午前11時

【町民の移動手段となる公共交通について】

平成31年3月議会で、町長の施政方針が提示され、平成31年度は、当町の現状に即した新たな公共交通システムの構築に向けた調査研究を進めていくとされた。

吉田町議会、総務文教常任委員会では、平成30年1月から平成31年2月まで生活交通の確保についての調査・研究を行い、調査報告書を作成した。

その中で、超高齢社会を迎える2025年問題、高齢化に伴う自動車運転免許証の返納、運動能力の低下や認知症など自動車運転操作ミスによる交通事故の多発。また、免許証を持たない方たちの病院への通院や買物等、移動手段の確保は交通弱者を守り、高齢者を引きこもり等から守る有効な手段であることを確認した。

委員会の視察の結果から、自主運行バスの導入は、民間事業者が撤退したものを補うために設けられたものが多い。松阪市のコミュニティバスの運行は、自治会が中心の検討会や地区住民のアンケート調査による検討等地域からの要望に基づいた、地域の立候補による「参画型」の運行が行われていた。西尾市のコミュニティバスの運行は、公共交通空白地の解消やアンケート調査、既存バス事業者との協働が行われていた。また、デマンド型乗合タクシーは、交通弱者の移動の利便性及びドアツードアの安全・安心の確保と、民間ビジネスの工夫と行政の協働等を背景に導入されていた。

吉田町では、交通網の整備と共に生活交通に大きな変化が起きている。コミュニティバスやデマンド型乗合タクシー等、生活交通の確保に向けた施策は重要であり、早急に必要となると考える。

そこで、当町の考える公共交通システムについて質問をする。

- 1 当町の現状に即した新たな公共交通システムの構築とは何か。
- 2 どのような目的と手段を想定したものか。
- 3 調査研究と運用までのタイムスケジュールの想定は。
- 4 平成31年度当初予算概要に、町内生活交通における新体系構築策定業務委託440万円（案）が計上されている。委託の意味と内容は。
- 5 町民の方たちの切実な声はどのように反映させるのか。